

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第10号
2011年4月14日

| 1

16日から

宮城へのボランティア派遣を再開

すでに各構成組織にご連絡している通り、4月7日に発生した強い余震の影響を受けて派遣を中止していた宮城県の各拠点（仙台、一関）について、4月16日の第三陣から派遣を再開します。

余震によって、仙台と一関の拠点が共に停電・断水等の影響を受けたため、4/8日出発の第二陣については見送り、その後の対応を検討していましたが、その後復旧（仙台のガスは未復旧）し、受け入れ可能となりました。

被災地では依然として余震が続いていますが、現地での作業・活動にあたっては、引き続き安全を最優先に行っていきます。

古賀会長岩手入り ボランティアを激励

古賀連合会長は、12日に岩手県に入り、県内で活動する連合救援ボランティアの激励、地元議員との意見交換などを行いました。

この日、古賀連合会長は、花巻市の東和ボランティアセンターを訪れ、連合岩手の砂金^{いさご}会長、小野事務局長らとともに、地元の市議会、県議会議員と意見交換を行いました。

砂金会長は、これまでに参加したボランティアが残したメッセージを紹介し、「ここに来なければわからない現実を目の当たりにした。けっぱれ（がんばれ）岩手！」などのいくつかの励ましのメッセージを読み上げ、これまでの活動への感謝の意を表しました。

古賀会長は「石巻（宮城）に入った際は、ボランティア派遣に対して現地の人から、こちらが申し訳なく思うほどの感謝を受けた。ボランティア参加者の中には、あまりに大規模な被害を前にして、自らの1時間、1日の活動がどれほど役に立つのか考えさせられると言う人もいた。しかし、その積み重ねこそが大きな力になることを痛感している。組織的・継続的に人を派遣できるのが連合の強みであり、これからも全力で活動にあたりたい」と決意を述べました。



地元議員と意見交換する古賀会長ら（12日・東和）

小野事務局長は「九州から北海道まで全国の仲間が器材等を含め自前で集まり、岩手復興のため力を発揮してくれている。地元で支えてくれる皆さんに感謝している。連合として、現地の社会福祉協議会と連携し、できる限りの協力をする決意である」と挨拶しました。

地元の議員からは「連合の災害派遣は常に行われているのか」などの質問が出され、古賀会長は阪神淡路大震災や新潟県中越地震の際の活動を紹介し、「連合には 680 万人の仲間がいる。人の力が必要なとき、連合はその力を発揮できる組織だと自覚している」と述べました。

最後に、砂金会長は、連合は政府からボランティア要請を受けたが、連合岩手にも震災の 3 日後に達増知事から直接に人的支援の要請があったことに触れ、全国でこうした行動の継続をお願いしたいと述べました。

その後、古賀会長らは釜石市に入り、活動中のボランティアを激励し、地元の被災者にも声をかけ、励ましの言葉を贈りました。その後、古賀会長らは宮古市に入り、ボランティア参加者らと共に夕食をとりながら、参加者の奮闘をたたえました。



家屋で活動中のボランティアを見守る古賀会長ら（12日・釜石）

活動レポート

福島

●会津拠点（活動地域：会津若松市、いわき市）

【4/12】いわき市では、湯本地区 2 ヶ所の給水所で給水支援活動を実施。会津若松市では、支援センターでの物資仕分け、配布業務を実施。

【4/13】いわき市四倉町で、津波の被害を受けた稲田・水路の片づけ作業、いわき市湯本地区では給水所での給水支援作業を実施。



いわき市湯本地区での給水の支援（12日）

◆お詫び・訂正◆

第9号(4/12発行)で、「岩手県バス協会が、がれき・家財などの撤去作業を行った時に着用した衣類や靴、帽子などについて、そのままバス車内に持ち込まないよう、ボランティアに要請しました」と掲載しましたが、その後、同協会ではそのような要請は行っていないことが判明いたしました。岩手県バス協会および関係各位、ボランティア参加者のみなさん、各構成組織・地方連合会に対し、ご迷惑をお掛けいたしましたことについてお詫び申し上げます。今後、正確な情報提供に注意してまいります。

なお、ボランティア活動時の服装等の扱いにつきましては、衛生対策の観点から現地対策本部で指示する場合がありますので、その際は指示に沿った行動をお願いいたします。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第11号
2011年4月18日

11

第二陣 活動を終了

本日をもって、救援ボランティア第二陣（福島チーム69人・7日間、岩手チーム91人・5日間）が、現地での活動を終え、帰路につきます。出発前夜に発生した強い余震で宮城チームの派遣を見送らざるを得なくなり、その後も余震が相次ぎましたが、安全確保を徹底しながら活動を完遂しました。

16日出発の第三陣は、岩手、宮城、福島合わせて、構成組織・地方連合会から289名が参加する予定です。

◆写真レポート◆



←福島・いわき市での給水作業の様子。住民の皆さんと協力しながら、手際良く給水を進めています。(13日)



←岩手・釜石での家屋の片づけ作業の様子(11日)



←福島・相馬の民宿での片づけ作業。流されてきた漁網にゴミが絡みつき、やっかいな作業となりました。(14日)



←岩手・大槌、津波で家並みが完全に失われている中を、活動先に向かうボランティア隊。(11日)



(左)作業前の側溝。津波によって運ばれた土砂で完全に埋まっています。
(中)作業の様子 (右)作業後、側溝が確保されました。(14日・福島いわき)



第三陣からの活動報告 続々と

16日に現地に到着した第三陣の活動もすでに3日が経過しています。各地からの報告・感想をお送りします。

岩 手

●宮古拠点

【4/18】

宮古のボランティアセンターには、ボランティアとスタッフ合わせ、約60名が寝起きをしています。本日は、ボランティア活動第2日目。6時起床、7時朝食、8時10分からのミーティングで当日の作業内容を伝えます。

朝食、夕食は拠点の近所にある弁当店からのケータリングで、発砲スチロールに入ったおかずと、巨大なジャーのご飯、そして味噌汁。それを、11に分かれた生活班が交替で配膳、皿洗いをします。

本日の業務は9班に分かれました。1班は2時間離れた岩泉の温泉の泥出し、2班から8班は宮古の個人宅等の片づけ、9班は鎌ヶ崎(くわがさき)小学校に設営されている仮設風呂の運営です。

このうち1班は、拠点から車で90分かけて岩泉の社会福祉協議会にいき、名前等を登録します。そこから担当の小本(おもと)温泉へ向かいます。小本温泉は宴会場付きの温泉ですが、津波の被害にあい、3月11日以降営業していません。小本温泉の作業は昨日から始まり、おそらく23日まで続くと思われます。

17日は120枚の畳を大宴会場から運び出し、本日はボランティアの大工さんが外した畳の下の床板約120枚を運び出し、デッキブラシで洗い、天日で干して、また屋内に戻しました。

作業は毎日15時に終了。車でボランティアセンターのある臺目(ひきめ)に戻り、その後、入浴、作業班ごとの反省会、スタッフと各班班長の「班長会議」があり、19時20分から食事となります。

作業2日目、多少は慣れましたが、疲れもたまってきたところでしょう。22時30分の消灯前にはおそらく大半が夢の中にいることでしょう。



■外した床板の天日干し



■反省会で一日の活動を振り返り、翌日に備える

宮 城

●仙台拠点で活動中のJR連合・荻山さんから、活動内容や感想が寄せられました。

今回の仙台チームは、連合加盟組織からそれぞれ派遣された59名で編成されています。16日は連合本部での出発式を終え、バスでベースキャンプである仙台市の宮交会館へ。夕方には現地受け入れ式とミーティングを行いました。17日から、津波で甚大な被害を受けた石巻地区に入り作業を開始しました。

現地では10名程度の班を組み、それぞれ被災者宅を担当しています。JR連合を含む班が担当した地域

には、3メートル程度の津波被害を受けて1階部分が完全に浸水したものの、復旧作業により居住可能な家屋が多く、被災された方々が避難所から帰宅できるように、住民の方々と協力して、懸命に作業を進めています。

家屋の周りには、無数のガレキとヘドロが堆積して異臭を放っているほか、漂着した自動車や倉庫なども散乱しています。ボランティアの任務は、家人だけでは到底片付けられない、大量のヘドロやガレキの撤去です。カップ、安全長靴、ビニール手袋などを装備して、スコップと一輪車を使い、家屋の周辺や床下から搬出を行いますが、たちまちヘドロだらけになり、悪臭の中で作業が続く、なかなかの重労働です。それでも、住民の方から感謝の言葉を受けると、疲れも忘れます。私たちが担当したお宅は、日本製紙にお勤めだった組合員OBの方で、連合の旗を見て「懐かしいです。皆さんのおかげで勇気づけられました」と話され、むしろ、こちらが力をいただきました。

被災者の皆さんは、いずれも身内や知り合いが亡くなった方ばかりですが、気丈に頑張っておられます。まだ2日しか作業していませんが、家屋の片付けだけでもお役に立て、本当にやりがいを感じています。重労働が続くので、チーム一同、体調管理には十分に気をつけて対応を進めています。

被災地では復旧、復興が着実に進んではいますが、被害規模があまりにも大きく、ボランティアもまったく手が足りない状況です。長期の活動になることから、継続的な取り組みが重要になります。JR連合は連合の一員として、少しでも被災地、被災者の救援にお役立ちできるよう、組織をあげて支援を継続していくこととします。(JR連合 荻山市朗さんからの報告)

福島

●福島拠点

【4/17】相馬市内では、民家での家具搬出、畳あげ等を実施。

【4/18】相馬市内では、パークゴルフ場の漂着物の片づけ、郡山市では、避難所での炊き出し(夕食用として中華スープとゆで卵200人分)、炊き出し用の食材づくり、救援物資の仕分けを実施。柳川町では、炊き出し作業(「めった汁(豚汁の別称)」200人分)を実施。



■炊き出しの仕込み作業、全員真剣です(相馬)

●会津拠点

【4/18】会津若松の支援センターで、支援物資の整備・仕分け・受付・

配布を実施。いわき市では、道路沿いの砂等の除去(1kmを500mずつ2班で実施)、ボランティアセンターでの受付業務(作業指示書に沿って用具の貸し出し、返却管理)などを実施。

19日から、いわき拠点が稼働開始

これまで、いわき市へは会津拠点からバスで移動してきましたが、移動時間が片道2時間に及ぶという課題がありました。そこで、19日から、いわき市湯本に新たな拠点を設置し、会津拠点から約20名が移動します。これにより、いわきのボランティアセンターまで片道20分程度に短縮され、活動時間の確保、移動負担の軽減がはかれることとなります。



■津波に負けず咲いた花(いわき市)

【第三陣 派遣人数】 岩手104名 宮城79名 福島105名 計288名

【第一陣以降の延べ人員】 3,176名(4/16現在 ※派遣人員×活動日数)

いわきで活動中のボランティア隊（全電線のみなさん）から、現地で共に活動した地元ボランティアから送られたメールの紹介がありました。連合ボランティアへの感謝だけでなく、風評被害の苦しみ、そして、地元の復興にかける強い思いが伝わってきます。以下、ご紹介いたします（原則、原文のまま）。

今日は、一緒に楽しく、活動することが出来て、本当に良かったです！
 このような状況の中で、県外から沢山の方たちが応援に来て下さり、凄く温かさを感じます（*^ ^*）
 ボランティアという形で一緒に活動させて頂き、ありがとうございました。
 関西弁も教えて頂いたり、今までボランティアを行った中で一番楽しく活動させて頂きました！
 体に気をつけて、お仕事がんばってください＼(^ ^)／
 それから…東北…いや、福島県…いわき市を…見捨てないでください。風評被害に惑わされたりしないでください…。お願いします。もっと、沢山の人たちが理解をし正しい知識が求められると思います。
 差別偏見が日本で起こるのは悲しいことだと思います。
 私たち…傷ついたり、苦しむことが、これから沢山あると思いますが…
 沢山の方たちにたすけて頂いた分、くじけずに、一生懸命生きていきます
 今日は本当にいわきまでわざわざ来て頂き本当にありがとうございました

活動レポート

宮 城

仙台拠点周辺のがスが復旧！ 19日以降風呂使用が可能になりました（ただし班交代・時間制限あり）

●仙台拠点

【4/17】石巻市・大街道南地区で民家の泥出し、家具の運び出し、床板はがしを実施。

【4/18】石巻市、東松島市で、前日と同様の作業を実施。

【4/19】休養日

【4/20】石巻市、東松島市で、18日と同様の作業を実施。



現地から 大街道南地区は石巻港に近く、近隣の製紙工場から流されてきた紙パルプやロール紙等が民家の庭先に堆積しており、家財等の運搬通路を確保するため、まずそれらを除去しなければならぬ。民家の中には、津波で流されてきた車が4台もあり、ボランティアでは手のつけようがないところもあった。

家主からは非常に感謝される。ある方からは「女性が多い世帯で重い家具を運び出せずにはいた。大変助かった」との言葉をもらった。

●一関拠点

【4/20】 気仙沼市南郷地区で、民家床下からの泥出し、家財等の撤去、床・壁の洗浄作業を実施。

現地から 南郷地区は川沿いに位置している。多くの家屋が津波で1階部分が浸水したが、漂流物で損壊していない家は引き続き住むことができそうであり、依頼主もそのつもの様だ。作業内容はこれまでと変わらないが、この地区は床面積の広い家が多く、その分作業量が多い。

福 島

●福島拠点

【4/19】 郡山市内 2 か所の避難所での炊き出し、炊き出し食材の仕込み（1,260人分の野菜等）、布団等の片づけを実施。相馬市での作業は雨天のため中止。



■会津は雪景色に（4/19）

●会津拠点

【4/19】 会津若松では、支援センターでの支援物資の整理、配布、受付等を実施。

【4/20】 会津若松では、前日と同様の作業を実施。物資の中ではシャンプー・リンス、バスタオル、米への需要が大きいとのこと。



■人参の泥落とし。この日仕込んだ野菜は650人分（郡山市）

●いわき拠点

【4/19】 会津拠点から19名を受け入れ、拠点を立ち上げ。ボランティアセンターまでのルート確認、連合福島いわき地協との打ち合わせを行う。

【4/20】 いわき市沼内地区の道路にたまった砂泥等の除去作業、ボランティアセンターで作業に必要な器材の貸し出し・受け取り業務等を実施



■相馬での体育館の片づけ作業。壁の汚れの高さまで津波が押し寄せた（4/20）



■気仙沼で通行できなかった生活道路の清掃を行う。
左：作業前 右：作業後（4/18）



【第三陣 派遣人数】 岩手 104 人 宮城 79 人 福島 105 人 計 288 人
【第一陣以降の延べ人員】 3,285 人（4/21 現在 ※派遣人員×活動日数）

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第14号
2011年4月25日

| 1

おかえいなさい 第三陣 無事に活動終了！

いってらっしゃい 第四陣 気をつけて！

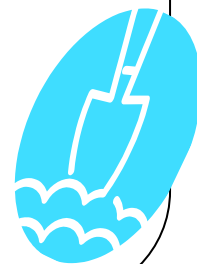
4月16日から4月24日の間、岩手県（東和）（宮古）、宮城県（仙台）（一関）、福島県（相馬）（会津）を拠点にし、被災地でボランティア活動を展開してきた第三陣のみなさんが無事活動を終了し、東京に戻ってきました。ほんとうにおつかれさまでした。

バトンタッチした第四陣は、新たに宮城県（千厩／岩手県）、福島県（いわき）の拠点を加え、東京を出発。8拠点・総計324名のボランティア派遣者が、被災地のみなさんの元にむかいました。くれぐれも体調にきをつけて！

岩手（宮古）で活動中のボランティア隊（UIゼンセン同盟のみなさん）から、♥あたたかい・ふれあい♥の活動報告が寄せられました。以下、ご紹介させていただきます。（原則、原文のまま）

ボランティア活動を始めると、最初は一人でボールなどで遊んでいた子供（小学校3年生）が、自分から、「僕も手伝う」と言ってくれて、土嚢を運ぼうとしてくれたり、あまっているスコップをもって泥を運んでくれたりしてくれました。われわれはこの子供の気持ちを大切にしようと判断し、危なくない作業を手伝ってもらうことにしました。危なくない作業といっても、子供にとっては非常に重い土嚢だったり、スコップだったりするはずなのに、最後まで邪魔にならないように一生懸命手伝ってくれました。みんなでひとつの作業をともにし、成し遂げる感動を分かち合いました。きっと、この経験は、われわれにとっても、子供にとっても忘れることができないものになる一生の宝になることだと思います。

UIゼンセン同盟 化学部会 清家 浩二



つながる、 ささえる、 680万

連合救援ボランティアレポート

第15号
2011年4月27日

11

各地域の活動内容とお洗濯事情



連合救援ボランティア活動は4月24日に第4陣が出発し、4月27日現在で第1陣以降のべ4,727人が現地へ向かい活動しています。その活動内容は日々さまざま、ボランティア派遣のみなさんには各地域で臨機応変に対応いただいています。

時としてその活動は、想像していた内容とは違うケースもあります。以下最近の各地域の活動内容をご報告します。

～岩手よい～

岩手（東利）では陸前高田市での「サンマ回収」作業が行われました。3月11日の大津波で、現場の1キロ下流にあった2棟の冷凍倉庫が完全に破壊され800トンもの冷凍サンマのすべてが周辺にまき散らされ、震災から5週間すぎ、腐敗もすすみウジ虫や病原菌の大量発生の危機が目前に迫ったことで、サンマ回収を優先することになったようです。

遠野社会福祉協議会と連携し活動を進めている連合救援ボランティアのみなさんもこの活動に「まごころネット隊」に参加。想像を絶する！？活動に奮闘する様子が「**遠野市被災地支援ボランティアネットワーク 遠野まごころネット「活動報告」**」に掲載されましたので、以下抜粋しご紹介させていただきます。

4・22 「サンマ回収」作業

この日はこれまでで最多となる76人のボランティアが地元住民とともに、陸前高田市でのサンマ回収作業に奮闘しました。小川の中はもちろん、津波に押し流された周辺の家屋のがれきの中を一輪車で動き回り、付近に無数に点在するサンマを拾い集めました。



川の中での回収作業



がれきの中での回収



藤田信次さん(右)と同僚の大河原明さん

北九州市から参加してくださった藤田信次さん(47＝基幹労連)は、この日が初のサンマ収集。「てっきり加工工場の敷地内に、魚が散乱しているのかと思っていたら、町内全域に転がっていて、驚きました。すごい臭いで半分ぐらいの人が昼ごはんを食べられなかったぐらい、大変な作業でした」と苦笑いで話していました。

横浜市から単身、遠野までやってこられた岩崎真奈美さん(25＝会社員)も、滞在3日目のこの日が「サンマ初体験」。それまでの2日間は、被災地のボランティア事務局での受付業務と避難所に送る布団の積み下ろしただけに「今日はきつかったです。でも、今までで一番『ボランティアをしたんだ～』という実感があります。被災地の人たちに喜ばれる仕事ができよかったです」と充実の笑みを浮かべていた。

～宮城より～

仙台では民家の庭先に堆積した汚泥を土のうに詰めての搬出作業、家財（家具、ピアノ、マットレス等）の搬出、網戸等の清掃作業が行われた。

写真は、一人暮らしのおばあちゃんの家で、津波でだめになった手作りの味噌が入った瓶を片付けているところ。

3年寝かせる予定でしたが、1年目でだめになったとのこと。



～福島より～

勿来（なこそ）では、いわき市関田地区の道路両側の測溝（深さ約1m×200m）の土砂などの除去と土のう詰め作業や津波によって水没した田んぼ（200m×50m）のがれきの撤去、道路脇への集積が行われている。ぬかるんでいるため足下が悪く撤去物も水を含んで重く、腰にもかなりの負担となっている。

会津若松では支援物資の整備・仕分・配布・被災者の受付等、650世帯1000名の被災者の方々への対応を行った。いわきでは午後には天気が急変しヒョウに見舞われ作業は中止。ぼなりでは雪が降り始め夕方には吹雪状態になる等、現地の人も近年経験のない天候に遭遇している。



田んぼでの作業の様子



作業を進めた電機連合のみなさん

**各地域では、臭い・泥・汗・雨・風・寒さetc にも負けず、活動を進めていただいておりますが、
…ここで気になるのが各地域のお洗濯事情…**



災害本部ボランティア班への問い合わせでも「洗濯はできるのでしょうか?」といった問い合わせも多くいただいています。とても大切な情報提供がこれまで不十分であったことから、今回はまとめてリサーチし、ご報告させていただきます。今後ボランティア派遣に行く際のご参考にさせていただければ幸いです。

岩手(東和) 洗濯機 1 台

下着類は日数分準備している様子。漁業地帯での活動の為、作業着の汚れ、においが強いので、上着として着るウィンドブレーカーの洗濯は日々各自で行われている。着替えは十分な枚数が必要。洗濯機 1 台あるが、多くが手洗いで対応。現地からも作業服の着替えは多めに準備を！とのコメント。

岩手(宮古) 洗濯機 1 台

洗濯機 1 台は軍手・タオル等の共有物の洗濯に使用し、ボランティアは原則洗濯をしていない。下着類は日数分準備している様子。

宮城(仙台) 洗濯機なし

活動は3勤1休3勤としていることから、中日の休息日に希望者をコインランドリー&入浴へバスで送迎し対応。約半数の人が利用している。

宮城(千厩) 洗濯機 1 台（以降3台設置予定）**福島(相馬)** 洗濯機・乾燥機各6台、コインランドリー(月休)近隣に有**福島(会津)** 洗濯機3台・乾燥機1台、スキー用乾燥室有**福島(いわき)** 洗濯機1台・乾燥機なし、コインランドリー（車で10分）有

直近の各地域の状況については、@れんごう（4月27日発信）「各拠点地域情報」もご確認ください。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

ボランティア派遣 開始1カ月で延べ6,000名が活動

救援ボランティアは3月31日の第1陣派遣開始から1カ月が経過しました。5月2日には現地での活動を終えた第4陣319名との入れ替わりで、第5陣338名が各地に向かいます。

活動レポート



宮 城

●仙台拠点

東松島市赤井地区・大曲地区で、ボランティアセンターの要請に基づいてローラー作戦を実施。通常は、ボランティアセンターに入った要請をもとに活動先が振り分けられることが多いですが、この地区ではボランティア活動が立ち遅れていることもあり、一斉にニーズ把握と作業を行う必要があるとの判断で実施されました。こういう時こそ団体ボランティアの出番。メンバーはグループごとに担当エリアを決め、一戸ずつ飛び込み、家主のニーズを聞き出し、その解決にあたりました。連合チームが作業しているのを見て、近隣の家からも作業を求める声が掛かることもありました。作業内容は、庭先や床下からの泥出し、家財の片づけ、写真の清掃など多岐にわたりました。



■ローラー作戦の前に担当エリアを確認（東松島）

●一関拠点

気仙沼市内で、津波で浸水した畳や家具の運び出し、屋内の清掃、庭など周辺の片づけ作業等を行いました。

■現地から

休憩中や終了後には、おにぎり、飲物、お菓子の差し入れを頂き、被災しながらも私たちに気を遣って下さる温かさ、交わす会話の中での前向きな姿勢に、一同感銘を受けました。また、拠点のある一関市千厩町（岩手）の町内会連合会長を訪問するなど、お世話になっている地域との交流も行っています。



■家財を運び出すボランティア隊（気仙沼）

福 島

●福島拠点

郡山班と相馬班に分かれて活動しました。郡山班は、避難所での炊き出し、食材準備、救援物資の仕分けを行い、相馬班は、民家の庭先の泥出し作業を行いました。

●会津拠点

勿来班と会津班に分かれて作業を実施。勿来班は、いわき市岩間町で水田の片づけ作業。陸上競技場ほどの広さの水田に散乱した家具等の撤去を行いました。会津班は、引き続き現地のボランティアと協働して、体育館での物資配布の支援を行いました。



■ 連合チームのアイデアで体育館に荷物の仮置き場を設置（会津若松）

●いわき拠点

民家で崩れた外壁の片づけ、市場や観光施設の清掃などを行いました。

現地から 狭い道で作業を行う際には、交通整理担当を配置し、事故防止をはかっています。連休に入り、一般ボランティアが急増し、ボランティアセンターの運営が混乱しつつあるようです。雨天時はボランティアセンターの判断で作業中止となりますが、いわき地域では屋外作業がほとんどであるため、雨天時でも出来る作業が少ないことが課題です。今後梅雨時期に入ると、さらに課題となりそうです。

●参加者の声 ～仙台から～

連合ボランティアとして東松島の赤井地区に入って3日が過ぎました。毎朝7時に起床、8時30分にペースキャンプとなっている宮交会館から二台のバスに乗り込み、一路、三陸自動車道で被災地に向かいます。被災地に向かう自衛隊の皆さん、物資や機材を積んだ車、ボランティアに向かうと思われる県外ナンバーの車と、地元の通勤ラッシュが重なり、高速道路も大変渋滞していて、現場に行くだけでも2時間近くかかってしまいます。被災地で私達が来るのを首を長くして待っている方々を思うと移動時間がとても惜しく、長く感じてしまうのは、ボランティア派遣者共通の思いだと思います。私達が受け持つ地区には、連合の他にも航空自衛隊や東京の大田区が募集したボランティアが活動しています。これからゴールデンウィークにかけ、もっと沢山の人が参加してくれるようですが、受け入れ体制さえ整えば、仲間はいくらいても足りないほど作業はあります。被災宅はお年寄りだけの家や女性だけの家も多く、物を運び出したくてもどうすることも出来ないの、ボランティアが無くてはならない存在となっています。そんな中、庭のヘドロ出しをしたお宅のおばあちゃんから、「あなた達ボランティアの皆さんの献身的な働きに勇気をもらった。私達が頑張っって元気になって行くことがボランティアの皆さんに出来る恩返しだと思って私も頑張っって生きていきます」と言っていただきました。連合ボランティアの活動が、被災地復興の確かな支えになっていると実感しました。明日からの作業も頑張ろう、と仲間同志、決意を新たにしました。

——JR連合 中原博徳さん

【第五陣 派遣人数】 岩手 107 人 宮城 107 人 福島 124 人 計 338 人

【第一陣以降の延べ人員】 6,013 人（5/1 現在 ※派遣人員×活動日数）

岩手・宮城に新たな拠点を設置します

岩手と宮城に、連合救援ボランティア活動の新たな拠点が加わります。岩手では、5月10日の第6陣出発に合わせ、気仙郡住田町の五葉集会センターを「住田ボランティアセンター」として、新たな拠点とします（25～30名規模）。これによって大船渡や陸前高田地域へのアクセスが短縮され、活動時間が増えます。また、18日には、宮城県石巻・東松島地域での活動の新たな拠点として、遠田郡美里町の遠田地区労働会館が新たな「美里ボランティアセンター」として加わります（30名規模）。詳細は別途資料をご参照ください。

活動レポート ゴールデンウィーク中も各地で精力的に活動！

岩手

仮設住宅の入居を支援 =宮古=

5月7日、連合宮古ボランティアチームは、宮古市では最初の入居となった愛宕公園の仮設住宅81戸で、食器類の台所用品をはじめテーブル、物干し竿などの家財道具の搬入作業を手伝いました。家電製品（冷蔵庫、洗濯機、テレビなど）などは既に前日までに運び込まれており、本日の生活用品の搬入で基本的な家財などは揃った模様です。仮設住宅に入る方々も「生活用品が届きたいへん嬉しい。ボランティアの方々に感謝します」と声をかけていただきました。

この日は、滝沢村の「大沢さんさ踊り保存会」の皆さんが避難所など4箇所を慰問し踊りを披露。夕方には宮古拠点でも、墓目（ひきめ）地区の住民の方をお呼びして披露していただきました。連合ボランティアメンバーも踊りに加わり、たいへん盛り上がり、疲れが癒されました（写真）。

8日には、田老地区で泥の撤去および土嚢袋詰め、整理作業、宮古市内で側溝の泥出し、津軽石地区では床下の泥出し、倒れている家具の搬出を行いました。なお、9日は全県でボランティア作業が休止となったため、拠点の布団干し、寝床のブルーシートの張替え、荷物整理などを行った後、被災地を視察しました。



■仮設住宅に生活用品を運び込む



■踊りの輪に加わり、一緒に盛り上げ

福島

●いわき拠点

連日いわきのボランティアセンターでの資材担当、市内各所での片づけ作業を行いました。いわきボランティアセンターの資材班は、毎日250～900名の一般ボランティアへの資材の貸出、返却の運営、管理を行ないました。連休後半には特に一般ボランティアの数が増えました。また、小名浜にある福島臨海鉄道の線路周辺でのゴミ撤去、永崎海岸沿いの側溝での土砂撤去、久ノ浜地区や四ッ倉地区の民家敷地で片づけ作業を行ないました。

現地から 5月7日に側溝の土砂の撤去作業を行っていたところ、近隣の民家から声がかかり、その人の駐車場のガレキの撤去を依頼された。ボランティアセンターに連絡し、すぐに作業に取り掛かってよいとの承諾を得たため、駐車場の作業も行った。側溝はすべて終了し、家主からは作業終了が確認された。駐車場は8割程度終了し、翌日以降は他の一般ボランティアに引き継ぐことになった。駐車場の家主からは「天使にみえます」との感謝の声をいただいた。



■フリ網の撤去・解体(相馬・3日)

●会津拠点

(郡山班) 郡山市の「ピックパレットいすゞ」(現在1300名が避難生活)敷地内で「野菜の水洗い班」と「カット班」に分かれて翌日の食材の仕込み作業。また、炊き出し班を3ヶ所に分散して派遣しました。地元ボランティアセンター、NPOと協力し、順調に業務を遂行しています。

(会津班) 現地ボランティアとともに、体育館内における物資搬入、仕分け、受付・誘導などを行いました。

現地から 「避難者の方々は連日同じ内容の弁当が支給されており、野菜が圧倒的に不足している。野菜スープなどの炊き出しがいかに大切な支援なのか良くわかった」「5月5日はこどもの日ということで、郡山の炊き出し先では鯛焼きとおもちゃをプレゼント。会津若松でも、大熊町から避難している子どもたちに「かぶと」を作り、好評だった」「ゴールデンウィーク明けはボランティアの数が大幅に減るため、炊き出し支援の日程表に空欄が目立つ」「大規模避難所では間仕切りがないため避難者のストレスが増していることもあり、こうした状況を承知した上での活動が必要」

ご注意ください! ~ケガ防止のために~

1. クギ、折れた木材などの鋭利物 —— 接触、突き刺し、踏み抜きに要注意

津波で流された物の中には、折れた木材・物干し竿・鉄筋など鋭利な部分が残されています。割れたガラスやクギは、ガレキだけでなく土砂・ヘドロにも混じっています。これらの鋭利なものに十分気をつける必要があります。土砂の除去作業にあたっては、土のうを持った時に切り傷を負わないよう、持ち方に注意しましょう(土のうの底を手で抱えない等)。耐油性ゴム手袋は連合で準備していますが、ガラス等や割れた木材を扱う作業では作業用の革手袋が重宝しますのでご用意を(1,000円前後で購入可能)。



2. 長時間無理な姿勢を続けない —— 適宜休憩・交替を

屋内での泥出し作業を行う場合には、狭い場所で長時間同じ姿勢で作業するケースも出てきます。腰痛などを防止するため、作業の交替、こまめな休憩を行きましょう。

3. 声を掛け合い安全確認 —— 不注意によるケガ・事故を防ぐ

連日の作業と、慣れない場所・作業内容での緊張によって、疲労は確実に蓄積されます。疲労は注意力を落とします。不注意によるケガや事故を起こさないよう、危険が予測される場合や、家具の移動などの際には、互いに声を掛け合い、安全を確認しながら作業しましょう。

◆宮城・千厩拠点に行かれる方へ マイマグカップの持参を!

千厩拠点では、現在紙コップを使用していますが、毎日出るゴミの量が多いことから、マグカップを使用することとしています。ゴミ減量のためご協力をお願いします。



その他の拠点でも、行政指定のゴミ袋が不足しているとの情報があります。「ペットボトルはつぶして捨てる」「弁当ガラの分別整理」「水筒・マグカップの持参」など、ゴミ減量に工夫しましょう。

ボランティア第6陣 元気に出発!

連合救援ボランティア第6陣 298名は、10日午前、岩手、宮城、福島 の3県、合計8ヶ所の拠点に向けて出発しました。5月10日時点での通算派遣人員は、実人員1,537人・延べ人員8,778人となっています。

これからが要注意 防ごう! 熱中症&食中毒

気温や湿度の上昇とともにリスクが高まるのが熱中症と食中毒です。すでに活動のたびきでも注意を呼び掛けていますが、改めて注意点についてお知らせします。出発前に今一度ご確認をお願いします。

熱中症対策

熱中症が多く発生するのは7・8月ですが、5月からリスクは高まっています。むしろ体が暑さや湿度に順応しきれていないこの時期こそ注意が必要と言えます。とくに、ボランティア活動では、泥出し等の作業でカップ等を着用することで高温多湿の環境となるため、より一層の注意が必要です。

(1)活動にあたっての注意点

○活動前

- ・当日の健康状態を相互にチェックし、体調がすぐれない場合は無理をせず休養する。
※睡眠不足、過度の飲酒は熱中症の要因になりますので注意して下さい。

○活動中



- ・通気・透湿性に富んだ衣服・帽子を着用する。
※カップ・雨具は通気・透湿性があるものを着用してください。
- ・休憩をこまめにとる(できるだけ日陰や風通しの良い場所で)。水分・塩分補給を意識する。
※スポーツドリンクまたは0.1~0.2%の食塩水(水500mlに食塩0.5~1g)、塩分補給用のアメが有効。冷水、おしぼり等をクーラーボックスに入れて持参することも効果的。
- ・同じグループ内で、健康状態にも相互に気を配る。

(2)熱中症かな、と思ったら (次ページ参考資料参照)

- ①体調がおかしいと感じたら、直ちに作業を中止する(させる)。意識がない場合(呼びかけに応じない、返事がおかしい)、体の痛みを感じる場合には、直ちに救急搬送を要請する。
- ②涼しい場所に移動し、衣服を脱ぎ、風を当てる。首、わきの下、足の付け根などに冷たい物を当て、体を冷やす。
- ③意識がある場合で、自力で水分・塩分補給できる場合は補給する。自力での補給が困難な場合、嘔吐が見られる場合は、医療機関に搬送し処置を受ける。

食中毒

高温多湿になると、食中毒のリスクも高まります。食中毒予防の三原則である「食中毒菌を付けない、増やさない、殺す」を、活動中・拠点での生活の両面で留意することが重要です。

- 弁当などの食品を直射日光・高温多湿の下で長時間放置しない。風通しの良い日陰やクーラーボックス等を利用する(クーラーボックスは各拠点で配置します)。
- 食事前には必ず手を洗う。手洗いが困難な環境では、殺菌機能のあるウェットティッシュ、擦り込み式消毒液を利用する。
- 食器(マグカップ等)はよく洗う。
- 長時間放置された飲食物は、もったいないが思い切って捨てる。



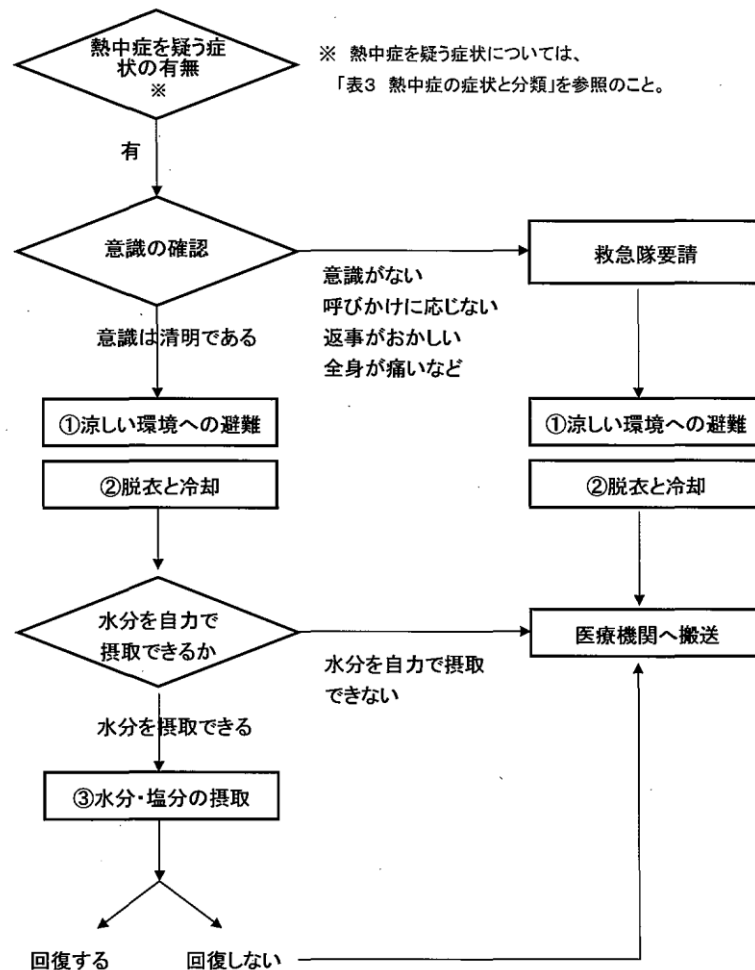
※腹痛、下痢、嘔吐の症状が出たら、すぐに医療機関で診察・処置を受けてください。

参考：厚生労働省「職場における熱中症予防対策マニュアル」より抜粋

表3 熱中症の症状と分類

分類	症状	重症度
I度	めまい・失神 （「立ちくらみ」という状態で、脳への血流が瞬間的に不十分になったことを示し、“熱失神”と呼ぶこともある。） 筋肉痛・筋肉の硬直 （筋肉の「こむら返り」のことで、その部分の痛みを伴う。発汗に伴う塩分（ナトリウム等）の欠乏により生じる。これを“熱痙攣”と呼ぶこともある。） 大量の発汗	小
II度	頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感 （体がぐったりする、力が入らないなどがあり、従来から“熱疲労”といわれていた状態である。）	
III度	意識障害・痙攣・手足の運動障害 （呼びかけや刺激への反応がおかしい、体がガクガクと引きつけがある、真直ぐに走れない・歩けないなど。） 高体温 （体に触ると熱いという感触がある。従来から“熱射病”や“重度の日射病”と言われていたものがこれに相当する。）	大

図：熱中症の救急処置（現場での応急処置）



※ 上記以外にも体調が悪化するなどの場合には、必要に応じて、救急隊を要請するなどにより、医療機関へ搬送することが必要であること。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第19号
2011年5月12日

| 1

地域との交流で復興を応援

連合の救援ボランティア隊が各地で活動する中で、現地の方々との交流も深まっている様子が伝えられています。ボランティア第4陣に参加し、岩手県宮古市を中心に活動したUIゼンセン同盟の櫻井万弓さんから、現地で活動中に知り合った方との心温まる触れ合いについて手記をいただきました。

私たちのボランティア活動先である^{くわがき}鉾ヶ崎小学校は、宮古港から400～500m街中の高台にあり、体育館が避難所となっています。小学校より低地はすべて津波の被害に遭い、打ち上げられた大きな船や家屋のガレキなど凄まじい光景が広がっています。

そんな中、私たちはガレキの中に赤い『たばこ』の旗を掲げて、軽トラック1台でたばことお酒を販売している男性に出会いました。川部さんとおっしゃるその男性は、津波で店舗を流されてしまい、知人から譲り受けた軽トラックと支援物資の作業着で、4月26日に店舗のあった場所で営業を再開させたところでした。「ここでがんばっていく!!」というおじさんの前向きさに感動しました。

その夜、メンバーで相談し、この地域で再開第一号となったお店の開店日に、私たちが最初のお客になったことに縁を感じ、復興と応援の気持ちをこめて、宿舎にあるもので看板を作りしました。

翌朝お店の川部さんにプレゼントしたところ「ダメだなあ…涙もろくなっちゃって…」と言いながらも笑顔を見せてくれました。…喜んでくれたかな??

被災されたみなさんは、現地に来る前のメディア情報から想像していたよりもずっと遅く、前向きに再建に取り組んでいます。今後はそのことも踏まえた活動と心構えが必要であり、それを多くの方に伝えていくことが重要だと感じました。

(UIゼンセン同盟 武全連・ワイス労働組合 櫻井万弓さん)



■お店の前にて川部さん親子と共に。
(中央で手作り看板を持つ川部さん親子を
囲むUIゼンセン同盟の皆さん。左後方に見
えるのが鉾ヶ崎小学校)

新拠点で思い新たに =岩手・住田拠点 活動スタート=

5月10日、岩手では3か所目となるボランティア拠点が気仙郡住田町に開設され、全国から集まった日教組の18名がボランティア活動を開始しました。

作業初日となった11日は、大船渡社会福祉協議会との連携のもと、3班に分かれ、大船渡市内の被災家屋の家財道具搬出や泥出し、庭の掃除などを行いました。被災者である家主とのコミュニケーションを大切にしながら作業を行い、家主からは「いままでは遠慮して頼めなかったんだけど、他にもやってほしいことが・・・」と、追加の作業を頼まれることも。今後は、社協と連携を取りながら、陸前高田地域でも活動を開始する予定です。



■社会福祉協議会と打ち合わせをする連合ボランティア隊



■被災家屋の庭でヘドロ掃除を行う